

総合計画体系	政策名	IV ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり《教育・文化》	施策主管課	社会教育課
			施策統括課長	白神 大三
	施策名	29 地域文化の振興	関係課	商工観光課, 学校教育課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)	対象指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
		実績	見込			実績	見込	実績	見込	実績	見込	
目的	A)市民 B)雲南市の指定文化財	A	人口	人	実績	42,428	41,917	41,159				
						見込		41,159	41,032	40,650	40,323	
		B	雲南市の指定文化財数	件	実績	86	86	86				
						見込		86	86	86	86	
		C			実績							
						見込						
	②意図(どのような状態にするのか)	地域の伝統文化や歴史遺産に関心を持ち、郷土への誇りと愛着の心を培うとともに、次世代に伝えていく。 ※地域文化とは雲南地域固有の文化と文化財	成果指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
			A	歴史遺産や地域文化に関心を持っている市民の割合			%	実績	60.4	59.5	57.3	
	B		過去1年間に遺産や文化財、地域文化を見たり、触れたりした市民の割合	%	実績	42.9	50.7	44.3				
	C		保護・保存がされている指定文化財の数	件	実績	86	86	86				
	D				実績							
	成果指標設定の考え方(成果指標設定の理由)		A-1)関心があるかどうかはアンケート調査で把握可能と考えた。A-2)誇りや愛着の心を培い、次世代に伝えていくためには、見たり触れたりすることが重要であると考えた。B)放っておくと消えてしまい、市にとって損失になるものが保護・保存すべき指定文化財なので、その保護・保存度合いを指標とした。									
成果指標の測定企画(実績値の把握方法)	A-1)市民アンケート調査「あなたは、雲南市の歴史遺産や地域文化に関心がありますか？」A-2)市民アンケート調査「あなたは、過去1年以内に地域文化(雲南地域固有の文化)を見たり、触れたりしたことがありますか？」B)社会教育課											
目標設定とその根拠(基本計画策定時)	A)成行値は、これまでの傾向から現状程度での推移を予測する。目標値は、観光分野と連携し、古事記編纂1300年記念事業に取り組んでいくことなどにより、現状から10ポイント程度上昇させることとする。特に、1300年記念事業をH23～25年度に集中することにより、この時点の伸び率を高く設定した。B)近年は減少傾向にあるが、成行値は過去の傾向を勘案し、40%程度で推移すると予測する。目標値は、A)と同様に取り組むことで58%まで上昇させることとした。C)今後の調査の動向によるものであり、現状あるものについては保護・保存に努めることで、成行値及び目標値は予測可能な範囲の数値とした。											

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① 地域文化の理解促進	市民	地域文化に関心を持つ。	雲南市の歴史遺産や地域文化に関心がある市民の割合	%	実績	60.4	59.5	57.3			
② 地域文化の継承	市民	地域文化を次世代へ伝える。	地域文化を次世代に伝える活動をしている市民の割合	%	実績	5.3	7.5	6.3			
③ 指定文化財の保護・保存	指定文化財	適正に保護・保存する。	保護・保存がされている指定文化財の数・割合	件 %	実績	86 100	86 100	86 100			
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
① 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ●身近にある地域文化や文化財に関心をもつ。 ●地域文化の伝承行事や文化財を学ぶ講座などに参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●文化財を郷土の歴史遺産として保護、保存に努め、情報を公開する。 ●地域文化活動を支援し、その情報を発信する。
② 状況変化	<p>A)施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して)</p> <p>○過疎化が進み、地域の伝統芸能、行事などの無形民俗文化財の保存継承、また、史跡、天然記念物周辺の環境整備が困難な状況になりつつある。</p> <p>○古事記編纂1300年記念事業により、遺跡を巡る市内への交流人口の増加が見込まれる。</p>	<p>B)この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?</p> <p>○市民の文化活動、文化財保存活動への支援が望まれている。</p> <p>○市民が身近に観て触れて学ぶことができる文化振興事業やふるさと学習の充実が望まれている。</p> <p>○著名な遺跡の周辺整備を行い、観光資源として活用を図り、地域の活性化につながることを期待されている。</p>

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	背景・要因 ○比較できる客観的データがないため、比較できない。

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○歴史遺産や地域文化に関心を持っている市民の割合は目標をやや下回ったものの、市民大学の開催や遺跡のガイドなど継続的な実施により、近年ほぼ同水準で推移している。 ○過去1年間に遺産や文化財、地域文化を見たり、触れたりした市民の割合はやや低下の傾向にある。 ○保護・保存がされている指定文化財の数は、前年同様の86件である。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○目標値に対する実績は成果指標A、Bともに下回った。その要因については、地域や雲南市の文化施設で実施している文化、芸術、芸能、演劇、音楽などの文化活動の情報発信の不足による。また、遺跡や文化財については、加茂岩倉遺跡や菅谷たたら山内では、常時、ガイド、案内を行い、郡垣遺跡では現地説明会を開催したものの、他の地域の史跡や文化遺産については、理解、関心を得るための情報発信、学習機会の提供が不足したと思われる。
基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 地域文化の理解促進	・郡垣遺跡の現地説明会や市民大学を開催するなど、市民が歴史文化に関心を持つための取り組みを行った。 ・市内の伝承地を紹介するためのガイドの育成を図った。 ・鉄の歴史村地域振興事業団により菅谷たたら製鉄の3Dの紹介映像を作成、古文書教室を開催した。
② 地域文化の継承	・神楽フェスティバルや出雲追分全国優勝大会の開催、掛合太鼓保存会の全国大会出場補助を行った。 ・弥生文化の里に関する事業ではきらきら雲南、加茂2000年プロジェクトにより銅鐸出土15周年事業や考古学講座を開催した。
③ 指定文化財の保護・保存	・菅谷たたら山内の保存修理事業の基本設計が完了し、遺跡整備の年次計画が策定された。 ・H20から調査を行った田部家古文書調査が終了し、報告書が刊行できた。 ・H21～H23までに郡垣遺跡の範囲確認調査が終了した。
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○地域文化に対して理解、学習、参加することができる文化振興事業を展開していく必要がある。 ○地域の伝統文化の保存継承、後継者の育成を図る必要がある。 ○市内の遺跡や文化遺産の活用、情報発信を図る必要がある。	○市内文化施設を拠点として、業務委託により文化振興事業の充実を図る。 ○地域の保存会、活動団体の支援育成、市民大学やふるさと教育の実施を図る。 ○加茂岩倉遺跡、菅谷たたら山内、郡垣遺跡などの整備・活用、シンポジウム、イベント等の開催を図っていく。
基本事業	① 地域文化の理解促進	○出雲神話や弥生文化、鉄の歴史などが市内の関連のある遺跡や名勝、民俗文化財と結びついて充分理解されていない。 ○講演や説明会など学習機会が充分提供されていない。
	② 地域文化の継承	○伝統文化を継承するため、保存活動や発表の場づくりを支援する。 ○地域自主組織や学校教育において、学習機会を提供し、地域文化の継承に関して理解協力を求める。
	③ 指定文化財の保護・保存	○有形文化財、史跡、天然記念物の適正に維持管理していく必要がある。 ○無形民俗文化財の保存継承を図る必要がある。
	④	
	⑤	